

○緑内障とは？○

緑内障は、現在日本人の中途失明原因の第1位であり、40歳以上の20人に1人の割合で患者がいるとされています。緑内障になると自覚症状のないまま緩やかに視野欠損が進行し、自覚症状が現れた時にはすでに相当進行している場合がほとんどです。

○治療の基本は眼圧を下げること○

緑内障は視神経が弱って視野が狭くなる病気です。眼圧が高く視神経が傷んでいく場合と眼圧が正常でも、もともと視神経が弱く傷んでいく場合があります。いったん障害を受けた部分は二度と元には戻りません。そのため緑内障の基本治療は視神経が傷まない水準まで眼圧を下げるのが目標となります。

○緑内障は一生の管理が必要です○

緑内障は治療を行えば治るという病気ではありません。高血圧と同様にあなたに合った目標眼圧を定め、薬（点眼・内服）、レーザー治療、手術などを用いてこれ以上進行しないように治療することが必要です。従って、必ず定期的に眼科を受診し、一生管理していくことが非常に大事になります。

○緑内障の治療法について○

点眼薬

一般的な治療法ですが、生涯にわたって点眼を続ける必要があります。

レーザー治療

レーザー治療（SLT）は合併症の少ない治療法で、緑内障の病型を考慮して選択が可能な治療です。しかし、効果が不十分な場合もあります。

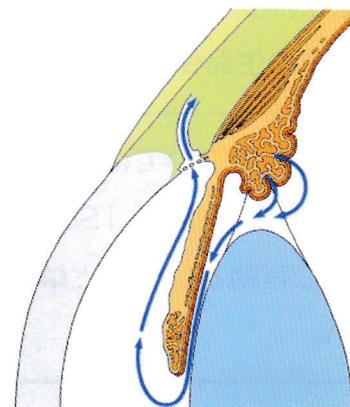
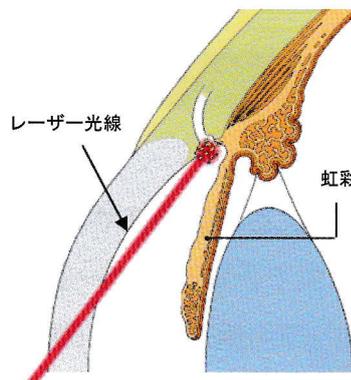
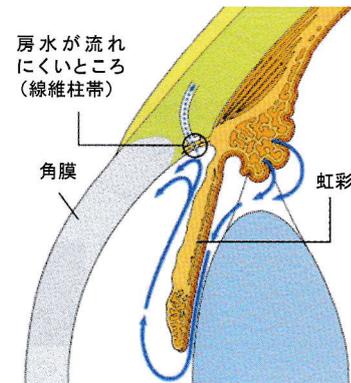
外科的手術

点眼薬やレーザー治療によっても目標眼圧に到達できず、そのままでは進行のリスクが非常に高い場合に選択されることが一般的です。

○SLTとはどんな治療ですか？○

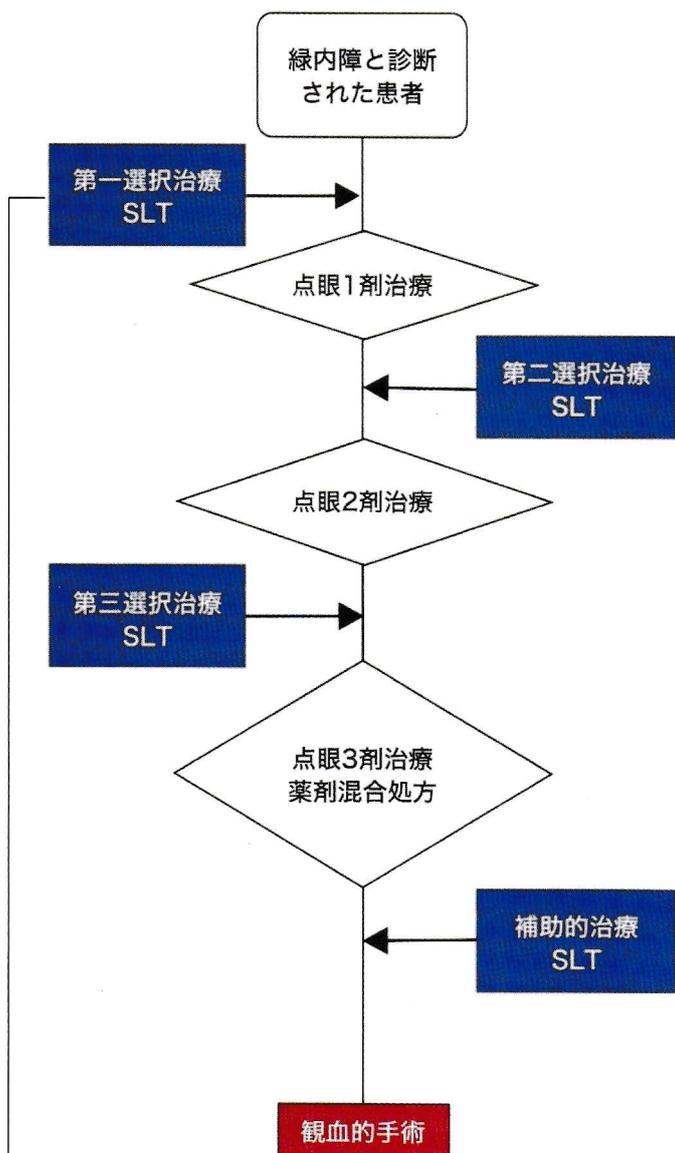
SLTとは、選択的レーザー線維柱帯形成術（Selective Laser Trabeculoplasty）のことで、眼圧を低下させる効果の高いレーザー治療です。このレーザーは低エネルギーの短パルスを房水の流出経路である線維柱帯に照射します。この処置により体内の自然治癒反応が引き起こされ房水の排出機能が改善し、眼圧を下げます。非常に低出力であるため、眼内構造に損傷を及ぼすことはありません。

○緑内障治療における選択的レーザー線維柱帯形成術（SLT）○



房水の流れを良くして眼圧を下げる

○緑内障治療手順○



○治療初期における点眼と SLT の比較○

名称	点眼	SLT
治療方法	毎日決まった時間に点眼を行う	治療前に点眼麻酔をし、専用のレンズを使用しレーザーを照射する
費用 (3割負担)	・点眼薬 2年間 36,000~72,000円	・レーザー治療代 58,000円前後 (両眼)
長所	・手軽に始められる ・一回の診察代が安い ・保険適応	・非侵襲的方法であるため繰り返し治療可能 ・就寝時間帯眼圧変動の抑制が期待できる ・一回の治療で2~3年間効果が期待できる (個人差あり) ・毎日点眼の煩わしさがない ・保険適応
短所	・毎日の点眼が面倒 ・点眼薬によるアレルギーが生じる場合がある	・一回の施術費用が高い ・全ての方に選択可能な治療ではない
副作用	・結膜充血 ・眼瞼色素沈着 ・睫毛多毛 ・上眼瞼のくぼみ ・心不全 ・呼吸困難 (喘息の方は禁忌) ・妊娠中、授乳中の方への使用は安全性が確立されていない	・結膜充血 ・かすみ ・重圧感 ・眼圧上昇 (上記全て一過性のもの)

※1 参考文献

「正常眼圧緑内障に対する第一選択治療としての選択的レーザー線維柱帯形成術の有用性」
福井県済生会病院 眼科 新田耕治

- ・点眼治療による過敏反応や副作用が気になる方は SLT を考慮することをお勧めします。
- ・First line SLT という、第一選択治療としての SLT が注目されています。
- ・SLT は緑内障治療過程のどの時期でも施行可能です。
- ・点眼治療を行っている方に SLT の追加が必要な場合は、通常、点眼治療の継続が必要です。
- ・SLT は民間の生命保険等の治療給付対象となり得ますので担当者に御確認下さい。

SLT の有用性については研究が進んでおり、今後「緑内障になったら生涯点眼が必要な時代」から治療法の主流が「SLT」になる可能性があります。しかしながら、SLT は全てのタイプの緑内障に有効ということはありませんので、御自身の病型と治療方針については医師と御相談下さい。